

滋賀県立高等学校在り方検討委員会

- | | | |
|-------|-----------|-----------------|
| 第1回 | 令和2年6月9日 | 諮問 等 |
| 第2回 | 8月3日 | 再編計画の実施状況、目指す姿 |
| 第3回 | 8月31日 | 取組の方向性、骨子イメージ案 |
| アンケート | 10月調査 | 中学生、高校生、保護者に実施 |
| 現地調査 | 11月20日 | 石山、守山北、愛知、能登川高校 |
| 作業部会 | 令和3年1月15日 | 中間まとめ(たたき台) |
| 第4回 | 2月16日 | 中間まとめ(素案) |
| 第5回 | 5月11日 | 将来を見据えた整理 |
| 第6回 | 6月18日 | 将来を見据えた整理 産業教育 |
| 第7回 | 7月20日 | 答申素案 高等専門学校 |
| 第8回 | 10月予定 | 答申(案) |

◆普通科の特色化

(1) 普通科の学科改編やコース、類型の設置

- 居住地で通学区域を制限しない全県一区制度の継続
- 国の普通教育を主とする学科の弾力化も踏まえて、各学校が主体的に検討し、特色化・魅力化を促進

(2) 高等学校の特色のP R

- 小中学生や保護者、地域の方々、中学校教員等に、多様な手法を活用して県立高校の特色をP R

◆生徒数減少への対応

(1)これまで以上に地域と連携・協働した学校づくりを推進

○規模が小さくなる学校では、学校内だけの閉じた教育活動ではなく、地域とともに目指す姿を具体化

○地域活性化の観点から、県立高校が所在する市町等との意見交換の場の設定

(2)多様な学びを実現するための少人数学級の工夫

(3)学校行事、部活動等の学校間連携や地域連携の研究

◆県立高等学校の学校規模について

- 現在1学年2学級（80人）～9学級（360人）の規模
- 小規模な高校を魅力に感じる生徒もいれば、大規模な高校で学生生活を送ることを望む生徒もいる
- 規模の大小に関わらず、特色ある教育活動を展開し、生徒が主体的かつ意欲的に学んでいけることが重要
- 地域の実情に応じた様々な規模の高校において、生徒の力を伸ばす教育が必要

◆将来に向けた議論の必要性について

- 県立高校は、多様な生徒の生きる力を育む場であり、地域活性化など多面的な機能を発揮する場でもある
- 生徒数の減少、社会の変化や地域の状況も踏まえて、市町関係者等と議論して方向を決めていくことが大切
- 教育委員会が、全県的視野から地域ごとに多様な選択肢を提供する魅力化の方向性を提示し、関係者の意見等を聞きながら、各校の魅力化を図る